

議事録サマリー

作成日：平成 16 年 11 月 29 日（月）

作成者：小澤富士男（ITCA）

会議名称	IT 経営応援隊 第 3 回「IT 経営教科書作成委員会」		
開催日時	平成 16 年 11 月 26 日（金） 14：00～16：20		
開催場所	経済産業省 本館 17 階 東 5 共用会議室		
出席者 （敬称略）	委員長	川内 晟宏（プロセス経営研究所代表 / IT コーディネータ）	
	委員	内田 和成（ボストンコンサルティンググループ日本代表） 上村 孝樹（㈱日経 BP 主任編集員・中堅中小企業 IT 化支援プロジェクトリーダー） 【欠席】菊地 俊延（イノバートストラテジー有限会社 代表取締役） 木村 玲美（ITC-METRO、浜松総務部有限会社） 桑山 義明（オープンコンサルティングプロジェクト代表） 下田 邦典（特定非営利活動法人 IT コーディネータ協会 専務理事） 高梨 智弘（株式会社 日本総合研究所 理事 公認会計士 経済学博士） 中村 和夫（㈱イー総研 代表取締役社長、IT コーディネータ、 中小企業診断士、TAMA 客員研究員） 伏見 真（株式会社名古屋ソフトウェアセンター 取締役企画部長） 松島 桂樹（武蔵大学経済学部教授（経営情報システム担当）） 【欠席】弓崎 伸彦（特定非営利活動法人 IT コーディネータ協会 事務局） （五十音順）	
		経済産業省	野口 正（商務情報政策局 情報化人材室 室長） 河野 太志（商務情報政策局 情報処理振興課 課長補佐） 中川 欣司（商務情報政策局 情報処理振興課 係長） 青田 優子（商務情報政策局 情報処理振興課）
		中小企業庁	鶴田 雅文（中小企業庁技術課 企画官）

議事進行	松下 正夫（特定非営利活動法人 IT コーディネータ協会 事務局）	
配布資料	資料 1	IT 経営応援隊（中小企業の経営改革を IT の活用で応援する委員会） 第 3 回 IT 経営教科書作成委員会 議事次第
	資料 2	IT 経営応援隊 IT 経営教科書作成委員会 委員名簿
	資料 3	座席図
	資料 4	中小企業のための IT 経営教科書編集方針（案：v 3）
	資料 5	IT 経営成熟度（案）v 2
	資料 6	診断ツール（説明資料 + ワークブック）
	資料 7	ヒアリング実施要領
	資料 8	ヒアリング執筆マニュアル
	資料 9	東海バネ工業事例
	資料 10	経営者向け教科書目次
	資料 11	支援マニュアル目次
	資料 12	パンフレット
	資料 13	経営者のための経営革新企画実践テキスト

議事録サマリー

議事概要

1. 開会 14:00

2. 委員長挨拶 14:00

川内委員長

本年度の活動の内容について、また本日の議論の内容について説明が行われた。

本日は、パンフレットのたたき台を議論するとともに、それを元に作成する経営者向け/支援者向け教科書の目次を議論する。

3. 内田委員よりご挨拶

今回、はじめての参加となる内田委員より挨拶が行われた。

4. IT 経営教科書編集方針の説明【資料4】 14:05 ~ 14:30

川内委員長

前回に提示され、各委員から意見をもらいそれを反映した「IT 経営教科書編集方針」について、その変更点を説明した。

「IT 経営の定義」(5ページ)

「IT 経営戦略マップ」(6ページ)

「IT 経営気づきのプロセス」(9ページ)

「IT 経営が目指すもの(まとめ)」(10ページ)

「壁の発生要因の把握」(12ページ)

「企業規模による層別化(案)」(14ページ)

「中小企業の層別化モデル」(16ページ)

「経営者のやるきモード」(17ページ)

「セグメント別の壁の発生要因と対策」(19ページ)

「気づきIT 経営へのプロセス」(20ページ)

「気づきプロセスの着眼点」(21ページ)

「IT 経営応援教科書の対象プロセス」(23ページ)

「気づき進捗度ステップアップの手順」(24ページ)

「事例企業選定の前提条件」(31ページ)

「今後の導入が必要なツール類」(34ページ)

5. IT 経営成熟度(案) v 2の説明【資料5】 14:30 ~ 14:32

川内 委員長

資料に沿って、IT 経営成熟度について説明した。

6. IT 経営成熟度診断ツール【資料6】 14:32 ~ 14:40

川内 委員長

経営者が自己診断するだけで、IT 経営の成熟度が分るツールの説明が行われた。

7. 経営革新企画実践研修テキストについて【資料13】 14:40 ~ 14:50

現在ITSSP事業で使っている研修テキストが、説明された。

議事録サマリー

8. 各種意見 14:40 ~ 15:55

川内委員長の説明された「IT 経営教科書編集方針」の内容に対し、各委員から活発に意見が出された。以下に代表的なものを紹介する。

(1)「社長の思い」が起点となったストーリーになっているが、現在の経営においては、会社は公共のものとしてあるべき姿を目指すことにした方がいいのではないか

(2)本委員会は国の施策として行っているのだから、中小企業の実態に沿うのではなく、理想追及で行いたい

(3)中小企業の経営成熟度は様々なレベルがあるので、この教科書の提供先は平均的なレベルの中小企業を対象にするべきではないか

(4)中小企業のセグメント化に「企業規模」が軸の一つになっているが、中小企業にとっては規模を求めることは、必ずしも必要ないので、他の軸を使ったほうがいいのではないか

(5)「気づきのステップ」は、ベンダー、コンサルタントの視点になっているのではないか

(6)経営者から見た、気づきのプロセスチャートを入れてはどうか

(7)IT 経営の必要性の気づきフェーズと、実行段階での気づきは別に存在するので、図中にそれを表現してはどうか

(8)気づきの内容に、「新しいビジネスモデル(量や規模を追わない)」と「やる気創造」は含まれているか

(9)「経営の近代化」として、もっと外部要因を教えるはどうか(ブロードバンドがビジネスを変える等)

(10)今までの積み上げによる延長線上の視点と、新しいことへの対応の視点の両面を表現する必要がある

(11)本資料は検討段階の資料が混在しているため、分りにくくなっているだけで、今まで出された意見は盛り込まれているのではないか

今回説明した「IT 経営教科書編集方針」は支援を受ける経営者の視点と、支援する側の視点を分離して表現していないのでわかりにくくなっている。川内委員長が次のような再整理を行い、メールにて配布し意見を聞くこととなった。

(1)経営者向けと支援メンバー向けの二つの視点に分けた再整理。

(2)気づきのコンセプトの再整理。

9. パンフレットについて 15:55 ~ 15:57

キーコンセプトを、「10年後に生き残っていますか」とした、パンフレットのドラフト版が提示された。各自に次回までに読んでもらい、意見を述べてもらうこととした。

10. 経営者向け/支援者向け教科書の目次について 15:57 ~ 16:00

パンフレットから展開される、経営者向け/支援者向け教科書の目次が提示、説明された。目次だけではイメージが掴みきれないため、次回ドラフト版を提示し議論をすることとなった。

11. 次回、次々回日程

第4回 2005年1月26日(水) 10:00 ~ 12:00

第5回 2005年2月21日(月) 14:00 ~ 16:00

12. 閉会 16:03

以上